



のびる ほどっ子!

ほっとな未来へ 3C!

令和5年8月31日

横浜市立保土ヶ谷小学校

学校長 宮生 和郎



再開、再会、そして実りの秋へ

～制限のない夏、記録的な厳しい暑さを超えて～

校長 宮生和郎

朝、星川駅バス停から学校まで普段は何でもない距離が、容赦なく照り付ける太陽光によってとても長く感じる日が続いています。建物の影に入ると何℃違うのだろうと思うくらい涼しくなります。L字型に細長い学区の道を子どもたちはどんな思いで毎日こうした日向と日陰を歩いてくるのだろうと思い、夏休み明けの一週間、毎朝「おはようございます。」と子どもたちに挨拶するときに

[星川駅から学校に向かって歩いてくる道]



『暑い中よく頑張って歩いて来たね』という気持ちを込めていました。日没後、鳴き止まないセミの大合唱からマツムシやコオロギの静唱（斉唱）に代わってきたので、初秋へと季節が移り変わってきていることは確かですが、引き続き熱中症予防対策を取りながら夏休み明けの教育活動の回転数を徐々に上げていきたいと思えます。

さて、今年の夏は花火大会やコンサート、スポーツ大会など多くの人が集まる各種イベントが開催され、多くの人が同じ方向を見て感動を共有できる機会が戻ってきました。107年ぶりに日本一の栄冠を勝ち取った慶應義塾高等学校の奮闘



は久しぶりに多くの横浜の人々、関係者をテレビの前に釘付けにし、感動を共有できる機会を与えてくれたと思えます。また、帰省して親戚や懐かしい友人と再会し、美味しいものを食べながら語らうといった心温まる時間をもてた方も多かったのではないのでしょうか。日本に限らず世界中で同様の再開や再会があり、耐えてきたからこそ出口が見え、できなかったことができるようになった

喜びや人とつながっている安心感をより深く心に刻み込んだ夏になったように思います。今年の再会や再開はきっと一人ひとりの心に“日常では見ようとしても見えなかった“大切なこと”を染み込ませてくれたのではないのでしょうか。ぜひ、そのような状況下で醸成された心の根っこから、その人らしい根や幹や枝を伸ばし、この秋にいろいろな色や形の実を实らせてもらえればと思います。